

平成28年度 南アルプス市立若草南小学校学校関係者評価書

平成29年1月24日（火）
学校関係者評価委員会作成

第4回学校関係者評価委員会

実施日：平成29年1月24日（火）午後1時50分～

場 所：若草南小学校校長室

参加者：学校関係者評価委員・教職員

神山 栄和（藤田区自治会長、学校評議員）

春澤 良人（浅原区自治会長、学校評議員）

金丸 浩恵（主任児童委員、学校評議員）

倉崎 正行（PTA 会長、学校評議員）

市川 慎（PTA 副会長、学校評議員）

柴田 肇（市教委総務課長、学校評議員）

市川 利仁（校長）

加賀美 敏（教頭）

石川 和樹（教務主任）

1 学校側から提案の内容

①学校関係者評価の趣旨

②評価の全体的な傾向について

③児童アンケートの内容と結果について（前期と後期を比較して）

④教職員自己評価シートの内容と結果について（前期と後期を比較して）

⑤保護者アンケートの内容と結果について（前年度と今年度を比較して）

⑥まとめ…今後の課題（重点目標）について

2 協議された主な内容

①学校自己評価についての全体評価について

②項目ごとの評価・達成状況・改善策について

③重点課題の取組の成果と今後の改善策について

《学校関係者評価書》

I 全体評価

全校児童のアンケートの集計結果は前期と比較すると、多くの項目でプラス評価の傾向にある。また、保護者のアンケートも前年度と比較して多くの項目でプラス評価の傾向にある。その要因として考えられることは、児童が学校生活を満足して送っているため、保護者の評価も高くなっていると考えられる。

また、教職員の自己評価の集計結果も前期と変わらず肯定的評価がほとんどで、全教職員が教育公務員という自覚を持ち、みんなで協力して若草南小学校の教育活動に取り組んでいると言える。

II 学校関係者評価委員会で指摘出された主な意見

○ケータイ・スマホの問題について

・スマホのLINEのグループ化などで簡単に文を送ってしまってトラブルが増えてしま

っているように思う。子ども任せにせず、保護者が子どもの使用についてしっかりとチェックをするべきである。これからもPTAの会合等でケータイ・スマホの学習会をして保護者にケータイ・スマホの危険性について伝えていくことが大切である。

- ・ケータイ・スマホの危険性が良く言われているが、スマホの頻繁な使用によって視力低下や姿勢の悪化が心配される。頻繁に使用しないルール決めと共に健康面からの指導もするべきである。保護者と連携して指導を進めてほしい。

○読書活動の充実について

- ・朝読書にどれくらい取り組んでいるか？→29年度は週2回の予定である。
- ・ケータイ・スマホが普及している時代だからこそ、読書が必要なのではないか。
- ・家庭も何かと忙しいと思うが、本を読むという雰囲気を作るとよい。また、親が本を読むようにすることが大切ではないか。
- ・読書は読んだ冊数ばかりではなく、質も大切である。高学年になるほど活字が多い本をじっくりと読むなど学年に応じた読書ができるとよい。

○地域連携・チーム学校について

- ・環境整備・交通安全・教材作り・読み聞かせなどの学校ボランティアが様々な場面で活躍しているが、特定の人に限定されているのもっと地域の人に関わるとよい。
- ・ボランティア活動は、子どもや学校を中心に行っていくとよい。たとえばPTAの奉仕作業に地域の協力を呼びかけてやるのはどうか。それによって学校を中心にして地域のコミュニティーの輪も広まるのではないか。
- ・ボランティアの仕事内容を簡単にして、長期でなくても短期でも参加できるようにすれば、多くの人に参加してもらえるのではないか。そして、参加者の中から継続的にできる人を探していくとよいと思う。
- ・学校だよりを地域の回覧板で回すことによって、学校のことを知ることができて良いという地域の意見がある。回覧板等で短期のボランティア募集をしても効果があるのではないか。
- ・学校は災害時の避難所として使うので、地域の人も良く来て学校のことを知ることは大切である。

○教職員の多忙化について

- ・教師に心のゆとりがないと子どもに余裕を持って接することができないので、何かといろいろな事が増えて忙しいと思うが、ゆとりを持ってほしい。
- ・教師の負担が多いので、仕事を減らせるなら減らしたい。
- ・教師の仕事をサービス業だと思っている保護者がいるが、〇〇してくれるのは当たり前という消費者意識ではなく共にやっていくという当事者意識を持つことが大切なのではないか。

III 今後の改善策・重点課題について

①校内研究を中心にした研修の充実と授業改善

- ・一人ひとりの児童を大切に学級・学年経営
- ・アクティブラーニングを活用した授業づくり
- ・カリキュラム・マネジメントに基づく教育課程の見直し
(学校教育全体でどんな子に育てるのかという目標を持って教科等を横断的に見渡して教育内容を決めていく)

②家庭や地域と連携する中での安心安全な学校づくり

- ・安全教育の更なる充実と安全管理の徹底（自分の命は自分で守る）
- ・見守りたすきの普及・拡大
- ・PTAによる自主的な登校班の編成と朝の登校指導
- ・地域と協力しての防災のしくみづくり（避難所運営の分担・マニュアル作り）